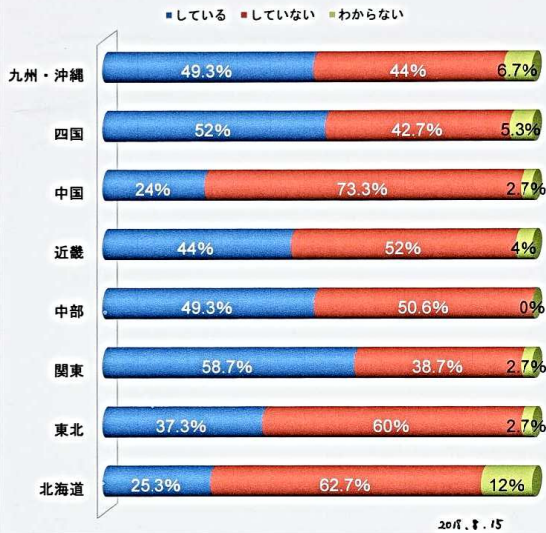


自 然 災 害

年別の主な自然災害発生件数



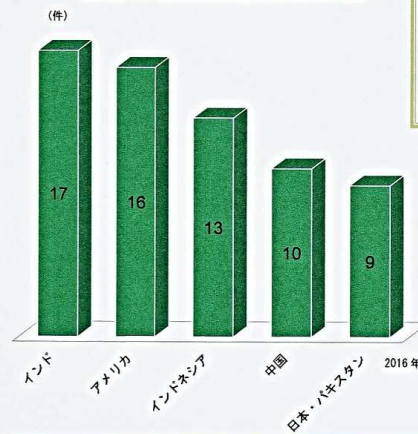
地方別の備蓄している割合



関東地方が**58.7%**と一番備蓄している割合が高かった。続いて49.3%の中部地方、九州・沖縄地方が2番目だった。一番低かったのは24%の中国地方だった。

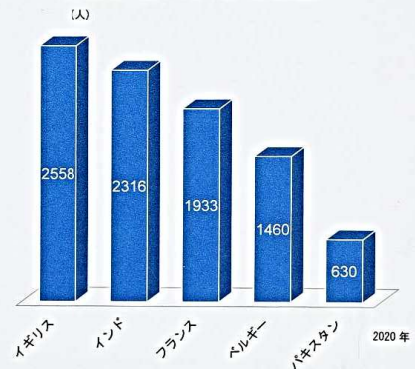
九州・沖縄地方は**台風や大雨**による洪水、震災などが多く起こるから、備蓄している割合が高かったと考えられる。北海道は雪害が多いイメージだが、意外と備蓄している割合が少なかった。

世界の自然災害発生件数



一番多かったのはインドで17件だった。日本は9件でパキスタンと並んで5位と世界的に見ても多いことが分かった。2位のアメリカ以外はアジアの国だった。上位5つの国は全て**造山帯**に属しているため、自然災害が多いと考えられる。

自然災害による死者数



一位はイギリスで2558人だった。インドとパキスタンは発生件数と同様上位だった。死者数は意外にもフランスやベルギーなど**ヨーロッパ**の国々が上位に入っていた。

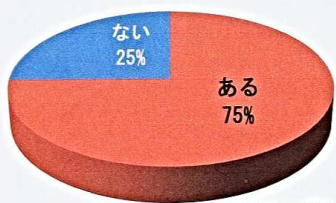
まとめ

出典
https://www.chusho.meti.go.jp/pamfile/hakusyo/2019/PDF/chusho/05hakusyo_part3_chap2_web.pdf?fsip=zrewic「防災・減災対策」
<http://saibo.tech/2017/01/23/disaster-world-ranking/>「災害が多い国 TOP5」
<https://resemom.jp/article/2018/08/24/48409.html>「子どものいる家庭、53%が非常食の備えなし。備蓄率最多の地方は？」
<https://www.globalnote.jp/post-14374.html>「世界の自然災害死亡者数 国別ランキング・推移」

全国的に見ると、子供がいる家庭の**半分以上**もの人が非常食などの備蓄品を家に置いていないことに驚いた。災害大国の日本で暮らす上で非常用備蓄品は必要不可欠だが、こんなにも多くの人々が備えていないことを知り**意識の低さ**を痛感した。また、日本などアジアの国は地震や台風による大雨や洪水などが多いが、ヨーロッパの国々に目を向けると地震や洪水の他に台風よりも強烈な**ハリケーンやサイクロン**など日本ではなじみのないものもあることがわかった。

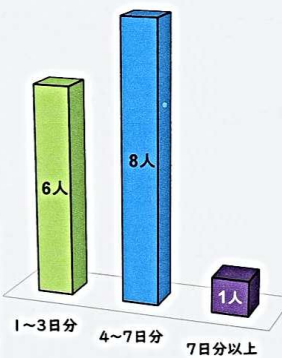
近年、北海道や福島県沖などで大規模な地震が発生している。また、東北や九州などで記録的大雨による洪水で多くの人が被害にあっている。年々自然災害の発生件数も増加傾向にある。いずれ**南海トラフ地震**と呼ばれる大規模地震が発生するとも言われている現在、自然災害は完全に防ぐことはできない。だが、常に保存食などを備蓄することや地球温暖化を抑制することなど、**身近からできることをしていく**ことが自然災害の被害を押さえる方法の一つだと、改めて実感した。

備蓄品がある人の割合



学年で見ると非常食などを備蓄している割合の方が多いが、全国的に見ると**約53%**と半分以上が備蓄していないことが分かる。

備蓄量



- 家族全員3日分以上
- 家族全員1~2日分以上
- 家族全員1日分以下
- 前は備えていたが今は備えていない
- 備えたことが一度もない
- わからない

子供がいる家庭の非常食を備蓄している割合

